

広島港ふ頭再編改良事業（宇品地区）

【事業目的】

広島港における近年の自動車運搬船の大型化への対応、大規模地震災害に対応した耐震強化岸壁の不足等に対応するため、老朽化している宇品地区岸壁(水深10m)を岸壁(水深12m)（耐震）に改良し、地域基幹産業の国際競争力の維持・強化、大規模地震災害時の輸送機能強化を図る。

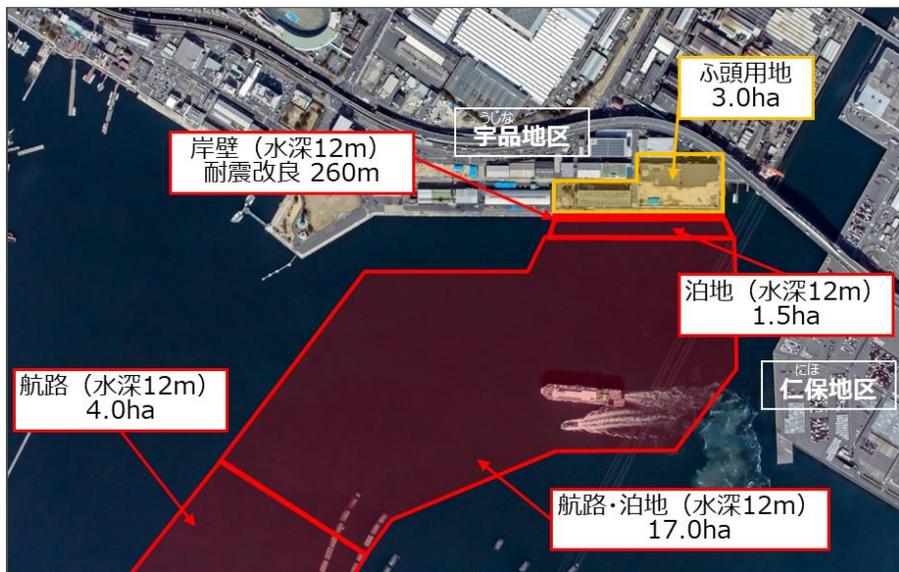
【事業内容】

直轄：岸壁(水深12m)、泊地(水深12m)、
航路・泊地(水深12m)、航路(水深12m)

起債：ふ頭用地

【事業期間】

平成27年度～令和7年度（予定）



※喫水調整・・・船に積む荷物を減らすことで、船の水深を浅くすること

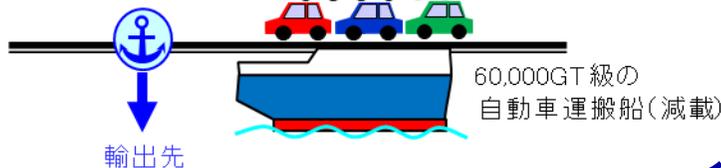
【整備に期待される効果の一例】

海上輸送コスト削減

水深が深くなることで自動車運搬船の大型化への対応や貨物を満載で輸送できるようになり、海上輸送コストが削減される。

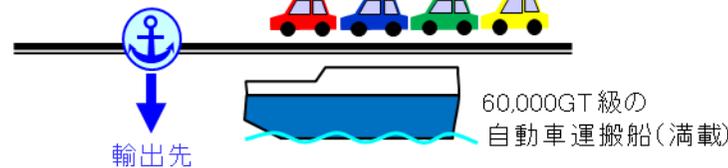
整備なしの場合

広島港仁保地区（水深10m）



整備ありの場合

広島港宇品地区（水深12m）



広島港老朽化対策事業（海田地区）

【事業目的】

広島港海田地区コンテナターミナルは、背後に立地する自動車部品の増産計画に伴い、今後、メキシコや東南アジア諸国の生産拠点へのコンテナ輸送量が増加する見込みとなっている。しかし、昭和59年供用後の30年間、高頻度に利用されてきた岸壁は老朽化が著しく、機能不全に陥る恐れがあるため、予防保全事業により施設の延命化を図る。

【事業内容】

直轄：岸壁（水深7.5m）

【事業期間】

平成27年度～令和元年度

